

2020年(令和2年) 8月19日 水曜日

地 域 20

しましま+ 中部

琉球王の琉歌 自販機で販売

【嘉手納】医療・介護分野のITシステム開発・販売のクレスト(町、池原稔代表)はこのほど、しまくとうばの継承と首里城再建の思いを込めて、琉球国王が詠んだ琉歌のミニ掛け軸を扱う自動販売機を設置した。

嘉手納のIT業者



琉歌のミニ掛け軸の自動販売機の設置をPRするクレストの池原稔代表(左)、照屋志樹さん=14日、北谷町北谷「おおば」北谷店前

首里城・しまくとうば復興へミニ掛け軸

収益金の一部を首里城再建のために寄付する。池原代表(70)は「首里城が焼失した時は喪失感が押し寄せた。首里城の再建も願い、沖縄のアイデンティティーのしまくとうばを次世代に継承する思いで取り組んだ」と話した。

減を防ぐためには日常的に目や耳で触れる機会や需要をつくるのが大切」として、しまくとうばの新たな需要創出を目指して県内各地で名護親方の「琉球いろは歌」のグッズや、琉歌が刻まれたお守りなどを扱う自販機の導入を進めている。

琉球国王が詠んだ琉歌のミニ掛け軸は、しまくとうばに関連する自販機としては4例目。今年3月以降、沖縄ごとの国など3カ所に設置している。

自販機は「首里城・王家の伝言」として、首里城に居城した琉球国王を中心に一部、王妃らの琉歌も含めて国を治めるための国王の物事の価値観や考え方から、日々の営みを詠んだものなど40首が並ぶ。ミニ掛け軸に琉歌の解説書が付いて1個500円。

池原代表は「沖縄文化の目に見えるシンボルは首里城。沖縄文化を内面的に支えているのはしまくとうばで、これは消滅してしまったら再建は

できない。しまくとうばをなくしてはいけないとの思いを強く持つっており、しまくとうばの良さを再認識し、言葉に自信と誇りを持つてほしい」と思いを語った。

問い合わせはクレスト、電話098(957)1119。